

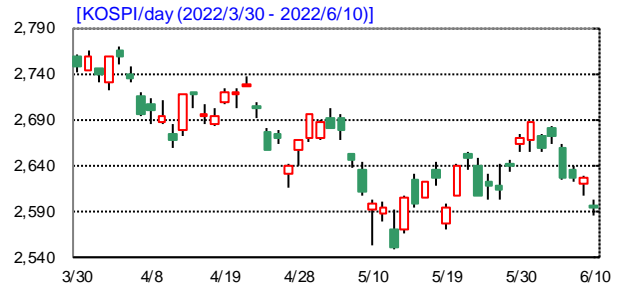


【韓国】 総合指数は 2.8%安と反落、今週は米 FOMC をにらんで神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.8%安と反落。6日は顕忠日で休場のため、4日間のみ取引だった。連休明け7日はインフレの持続と金融引き締めに対する警戒感を受けて大幅に反落。8日はほぼ横ばい。9日の中国貿易統計と10日の米物価統計を前に積極的な買いが見送られた。9日は小幅安。中国の5月の貿易統計は輸出が前年同月比 16.9%増え、伸び率は市場予想の 8.0%を大きく上回ったが、上海の一部地域で再び行動規制が強化されたことが嫌気された。10日は前日比 1.1%安。積極的な買いにつながる目新しい材料が見当たらない中、売りが広がった。終値は心理的節目の 2600 ポイントを割り込み、5月19日以来、約3週ぶり安値となった。今週は米 FOMC をにらんで神経質な展開か。国内では15日に失業率が発表される。

▼指数チャート

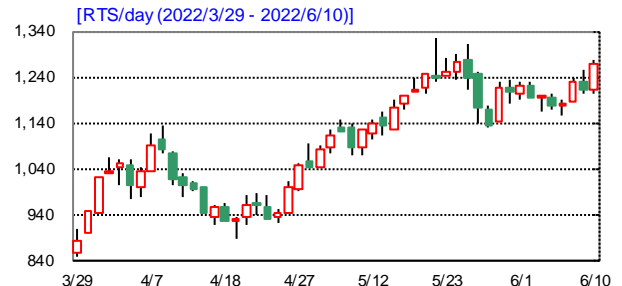


【ロシア】 RTS 指数は 5.8%高と大幅続伸、今週も為替相場に左右される展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は 5.8%高と大幅続伸。資源株などが大きく下げたものの、ルーブルの大幅続伸が支援となった。ルーブル建ての MOEX 指数が週間で 1.0%安となった一方、ルーブルが対米ドルで 8.4%上昇し、米ドル建ての RTS 指数を押し上げた。これまでルーブル高を支えてきた資本規制が緩和され、ロシア中銀が政策金利を 11.0%から 9.5%に引き下げたものの、週末終値としては 2015 年以来となる 1 ドル=55.75 ルーブルまでルーブル高が進んだ。個別銘柄では、エネルギーのガスプロムが 4.1%、スルグトネフテガスが 2.3%上昇した一方、金融の TCS グループが 15.7%安、産金のポリュスが 8.6%安となり、資源のルサルが 4.7%、ノリリスク・ニッケルが 4.1%下落した。今週もルーブル相場に左右される展開か。

▼指数チャート

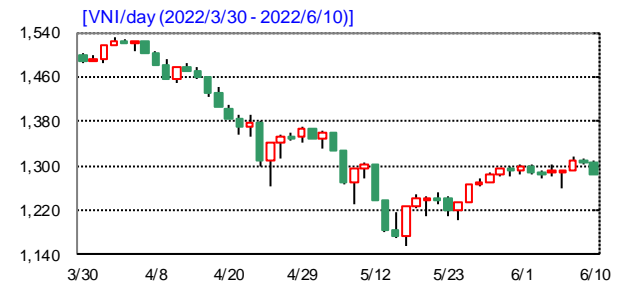


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 0.3%安と 4 週ぶりに反落、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.3%安と 4 週ぶりに反落。海外勢の買い越しを追い風に指数は一時 5 月 9 日以来の水準まで上昇したが、週末に売り圧力が強まった。VN 指数は週明け 6 日から 3 日続伸し、8日に一時、1316.8 ポイントと 5 月 9 日以来の水準まで上昇。海外勢の買い越しを追い風に不動産、金融、証券などが上昇した。9日はほぼ横ばいとなったが、10日は 1.8%安と反落。大型株から小型株まで幅広い銘柄に売りが強まった。週間では公益のペトロベトナム電力総会社が 11.1%高と急伸し、ゴム製品のベトナム・ラバーが 4.4%、金融のテクコムバンクが 4.1%、食品加工のマサン・グループが 3.7%上昇した一方、SSI 証券が 4.8%、エネルギーのペトロベトナム・ガスが 4.4%、消費財の FPT が 3.5%下落した。今週はもみ合いか。

▼指数チャート



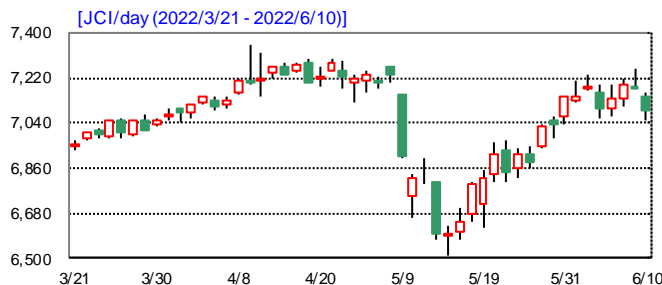


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.3%安、今週は 15 日に 5 月の貿易統計発表

ジャカルタ総合指数は週間で 1.3%安と 4 週ぶりに反落。方向感に乏しく軟調だった。週初の 6 日は前週末の NY ダウが下落した影響などで、前営業日比 1.2%安と反落。一方、7 日に買い戻されると 8 日は続伸したが、9 日は欧州中央銀行 (ECB) の理事会を目前に控えた様子見で 3 日ぶりに反落した。10 日はパーム油輸出に関する当局の度重なる政策変更や、上海の一部の地域で新型コロナの感染対策として規制が再び導入されることが嫌気され、前日比 1.3%安と続落して取引を終えている。今週は 15 日に 5 月の貿易統計が発表される予定。外部要因では 14-15 日に開催される米 FOMC が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

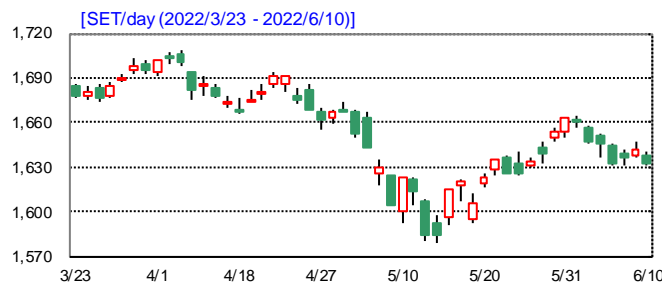


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%安、5 月の CPI 上昇率は 08 年 7 月以来の高水準

SET 指数は週間で 0.9%安と 4 週ぶりに反落。不安定な値動きが続いた。連休明けの 6 日は、5 月の CPI 上昇率が前年同月比 7.1%と 08 年 7 月以来の高水準に達した影響で 3 営業日続落。7 日は中央銀行の金融政策決定会合を翌日に控えた様子見で売り優勢の展開が続いたが、8 日は今年の CPI 上昇率見通しが上方修正されたものの、政策金利が市場予想通り 0.50%に据え置かれたことで安心感が広がり、指数は 5 日ぶりに反発した。9 日は中銀が前日の会合で金融引き締めへ転じる可能性を示唆した効果で金融株が買われて続伸したが、10 日は反落して引けている。今週は外部要因が指数を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート

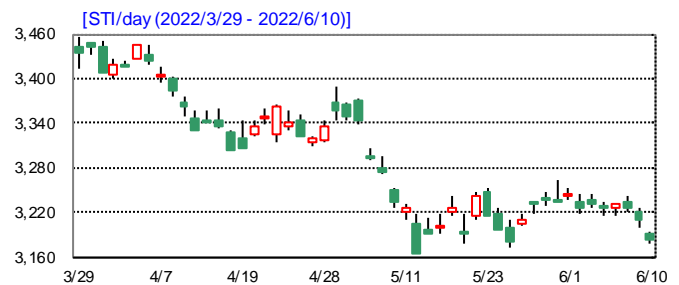


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.6%安、今週は 5 月の非石油地場輸出に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.6%安と反落。じりじりと下値を広げ、週末に終値で 3200 ポイントを割り込んだ。週初の 6 日は、原油高と前週末の NY ダウの下落が売り材料となり、指数は反落。7 日は反発したが、8 日は金融通貨庁が発表した民間エコノミスト調査で、今年の GDP 成長率見通しが 4.0%から 3.8%に下方修正された影響で売られた。9 日は上海の一部地域で 11-12 日に大規模な PCR 検査を実施するため、再び外出が制限されるとの決定が嫌気されて続落。結局、10 日まで 3 日続落して週の取引を終えた。今週は 17 日に 5 月の非石油地場輸出が発表される予定で、市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

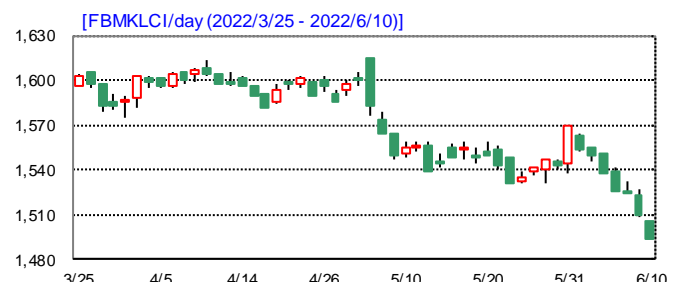


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.9%安、今週は 1500 ポイント回復に期待

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 2.9%安と 3 週続落。週末まで 7 営業日続落と軟調だった。連休明けの 7 日は、引け際の売りが響き 4 営業日続落。その後も世界経済の先行き不透明感を受けて大型株が指数下落を主導した。10 日は北京と上海で導入されるゼロコロナ政策に沿った新たな制限措置が嫌気されたほか、4 月の鉱工業生産が市場予想から下振れたことも売り材料となり、終値で約 6 カ月ぶりに節目の 1500 ポイントを割り込んで引けている。今週は 17 日に 5 月の貿易統計が発表される予定。外部要因では米国の 5 月のインフレ率が約 40 年ぶりの高水準に達したことに対する反応が注目される。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。